

令和4年度 第3回タウンミーティング

石川県中小企業家同友会とのタウンミーティング

日 時 令和4年5月27日（金）18時30分～20時30分
場 所 辰口福祉会館
参加人数 40人

1) 石川県中小企業家同友会 副代表理事 挨拶

- ・南加賀の発展こそが石川県の中小企業のこれからの未来を創っていくと思っており、この機会を通して、皆さんと一緒にこの地域が少しでもより良くなるよう力を合わせていきたい。

2) 石川県中小企業家同友会 南加賀支部 支部長 挨拶

- ・普段私たちが地元で取り組んでいることを知っていただき、私たちも地域の現状や課題について理解しながら中小企業と行政が手を取り合っていければと思う。

3) 市長 挨拶

- ・今日は、能美市の今の課題や方針、SDGs 未来都市として取り組んでいることなどをお話したい。

4) 市長 市政報告

◎はじめに

- ・今年のゴールデンウィークの能美市内の状況について、3年ぶりに会場を分散して九谷茶碗まつりを開催した。いしかわ動物園、手取フィッシュランドへと大勢の方が能美市にお越しになられた。
- ・「したいこと、能美市だったら叶うかも」のキャッチコピーのもと、市民の皆様方と一緒に、ふるさと能美市を盛り上げていこうと様々な取り組みを行っている。

◎能美市を取り巻く情勢と課題

- ・人口減少、少子高齢化、社会インフラの老朽化、災害、事件、事故、そして最近では新型コロナウイルス感染症など様々な課題がある。
- ・人口減少、少子高齢化になると社会福祉費の増大、一人暮らし世帯の増加という課題がある。
- ・社会インフラの老朽化については、学校の長寿命化の課題がある。

- ・ これらを解決していくためには、ヒト・モノ・カネが必要であり、これをどうやって生み出していくかということに取り組んでいる。自治体の勢いを示す指標として、一番わかりやすいのが、人口を増やすことだと考えていて、能美市ではすべての施策、事業が移住・定住の促進につながるように取り組んでいる。

◎新型コロナウイルス感染症の対策

- ・ 今年に入り、若い方の感染が広がっている。ワクチン接種の影響があると思われる。
- ・ 今後のスケジュールとして、現在4回目接種の準備を進めている。社員の皆さんにも接種を勧めていただければと思う。

◎戦略的企業誘致の推進

- ・ 企業誘致が好調で、福島グランパークの75%が売約済みである。それ以外の工業団地も好調で、今後見込まれる雇用人数が1000人である。これに伴い、住宅用地の不足や既存企業からの人材流出の課題がある。

◎施策と事業の紹介

- ・ 施策、事業は7本柱からなっている。この中で人材確保とデジタル技術について話していきたい。

【人材確保】

(能美の取り柄)

能美市内の企業をPRしているサイトであり、その中で会社のことや働きがいなどをPRし人材確保に繋げていこうという取り組みをしている。

(移住定住促進協議会)

専任のコーディネーターを設置し、市内で仕事をしたい、住むところを探しているなどの相談にワンストップに対応できるようにしている。

(就活支援)

企業が採用イベントに出展される場合に費用の一部を市がサポートする、また通勤支援として、車を購入したいという場合に、企業が車の購入補助に対する制度を実施する際、市がその一部を補助する制度を新たに作った。

(宅地造成)

国立大学が所有している10ヘクタールの土地を市が購入し、宅地を造成する。

(サテライトオフィス)

大都市圏の会社に勤めている人でも能美市に戻ってきて、能美市から仕事ができる場所を今作ろうとしている。

(里山イノベーション)

地域の皆様方と一緒にまちづくりをしていこうという取り組みである。

【ふるさと愛の醸成】

市内3中学校のOBに出演してもらい、パンフレットや文字では伝えられない先輩からのメッセージとしてビデオを制作した。成人式や立志式で見てもらい、ふるさと愛の醸成を促す。

【デジタル技術の活用】

(Web 健康手帳)

生まれてから高校に行くまでに、いろいろな診察を受けたり、予防接種をしたりしている。その医療情報を一気通貫で管理することを行っている。

(電子図書館)

感染症対策の一つでもあり、スマホなどで読みたい本のデータを入手できるようにしていく。

(GIGA スクール、電子黒板)

市内の小中学校では全員がタブレットを持って授業をしており、電子黒板も導入している。

(農村 DX)

農業の担い手確保などのため、農業技術のデジタル化を推進している。農業従事者のお手伝いができないかと思い、ビデオを制作し紹介している。

【シティプロモーション】

能美市の魅力を発信するためのシティプロモーションを一生懸命行っている。

(能ん美りカフェトーク)

感染症の影響で大人数でのタウンミーティングがなかなか開催できないことから、5人程度でいろいろなお話をするカフェトークを始めた。

【SDGs】

能美市では未来都市に選定されたことを受け、SDGsの取り組みをいろいろ行っている。

(円卓会議)

有識者や学識経験者等に入っただき、SDGsをどうやって進めていいかということ協議し、提案してもらっている。3つの分科会がある。

(窓口・特設サイト)

相談窓口を設置することや専用のホームページを作るにあたり、どんな窓口にすればいいか、特設サイトはどんな内容にすればいいかということを考えてもらっている。

(のみ指標)

SDGsを進めていく上で、何を目標にしていけばいいのか、どんな目標にすればいいのかを考えてもらっている。

(推進本部)

市民の皆様方と一緒に取り組んでいくためのサポーター制度、パートナー制度を作り、それぞれの施策を進めていくために推進本部を立ち上げた。

(ユニバーサル)

手話の勉強をしたり、手話ができる職員がピンク色の紐の名札を下げて、その職員が一目でわかるようにしている。

(こうなったらいいな)

市内の小中学生にSDGsを学んでもらうために、SDGsのゴールである2030年に能美市がどんなまちになったらいいかを聞き、そのために今何をすべきか意見を出してもらうことをしている。市内では講演会や展示会も行っている。

(その他)

能美市は「未来につなぐお人柄」というキャッチコピーを作ってSDGsを進めている。能美市に住んでいる人たちが自分の住んでいる地域、それから能美市全体をよくしていこうという機運が能美市の強みであり、その「お人柄」をSDGsに活用していこうとしている。

(のみ指標、パートナーシップ制度、情報発信)

- ・ホームページや相談窓口などを関連付けて取り組んでいる。
- ・パートナーシップ制度は、パートナーとサポーターの二重構造とし、希望される市民や事業者に登録してもらい、SDGsの機運を盛り上げよう、市民や事業者に対しSDGsに取り組んでもらおう、というものである。
- ・のみ指標は、市民力・地域力を向上していくための目標であり、「極める」「思いやる」「つなぐ」という3つのお人柄ごとに、どうすれば市民力・地域力を高められるか、ということを進めている。
- ・例えば、「極める」ということに関しては、能美市のお土産である「のみブランド」を極めたり、伝統工芸の九谷焼をもっと暮らしの中に取り入れていったり、市出身のアスリートたちを目指してスポーツに取り組んでいくことで極めていこうというものである。
- ・「思いやる」ということに関しては、だれ一人取り残さず子どもが安心して成長できるようにしよう、誰もが健康で笑顔で暮らせるようにしようという取り組みをしている。その中で医療介護DXということも進めている。
- ・「つなぐ」ということに関しては、感染症の影響はあるものの、みんなで地域活動に参加し、何かあったときは助けてもらおう、助けてあげようという機運を高めていこうという取り組みである。

【最後に】

何かご質問等があればお受けしたいと思う。改めて貴重な機会をいただきありがとうございました。

5) 質疑応答

(参加者)

ファーストフード店などが無い市だが、何もないのが能美市の魅力であり、小さいお店でも何かできるんじゃないか、頑張れるんじゃないか、と思える土壤があると考えているが、今後アクセス向上などによりファーストフード店や大型施設などの誘致や申し出があった場合は対応いただきたい。

(市長)

ファーストフード店などにお声がけはしていきたいと思っている。

(参加者)

小松市で会社経営をしているが、今後新しい工場を建てる場所を探す際、能美市で中小企業向けの工業団地を作る予定はあるか。

(市長)

今の工業団地が完売した後には次の団地を作っていくことになるが、予定はある。先ほどご紹介したところは大きな企業ばかり目立ってしまっているが、地元の中小企業の進出もある。ぜひ能美市で工場を建てていただき、さらに言えば、能美市に家を建てて住んでいただけるとありがたい。

6) ワークショップ

7) 閉会